



平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年10月30日

上場会社名 株式会社ショクブン
コード番号 9969

上場取引所 東証・名証二部
URL <http://www.shokubun.co.jp/>

代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)伊藤 雄一

問合せ先責任者 (役職名)取締役経理部長 (氏名)田野 光夫 TEL (052)773-1011

四半期報告書提出予定日 平成20年11月11日 配当支払開始予定日 平成20年11月28日

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績 (平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	5,402	—	△39	—	△74	—	△87	—
20年3月期第2四半期	5,232	△1.4	80	—	61	—	20	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
21年3月期第2四半期	△7	85	—	—
20年3月期第2四半期	1	94	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
21年3月期第2四半期	9,746		3,223		33.1		289	68
20年3月期	9,992		3,420		34.2		322	59

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 3,223百万円 20年3月期 3,420百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	8 00	—	8 00	16 00
21年3月期	—	8 00	—	—	16 00
21年3月期(予想)	—	—	—	8 00	

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 : 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	11,462	4.4	264	11.9	202	13.5	126	85.3	11	32

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 有

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 [新規 一社(社名 —) 除外 一社(社名 —)]
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
 [(注) 詳細は、4 ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有
- ② ①以外の変更 : 有
 [(注) 詳細は、4 ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]
- (4) 発行済株式数(普通株式)
- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- | | | | |
|-------------|-------------|--------|-------------|
| 21年3月期第2四半期 | 11,856,669株 | 20年3月期 | 11,292,066株 |
|-------------|-------------|--------|-------------|
- ② 期末自己株式数
- | | | | |
|-------------|----------|--------|----------|
| 21年3月期第2四半期 | 729,437株 | 20年3月期 | 688,934株 |
|-------------|----------|--------|----------|
- ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)
- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 21年3月期第2四半期 | 11,130,717株 | 20年3月期第2四半期 | 10,600,622株 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|

* 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 平成 20 年 7 月 25 日に公表した予想数値は、本資料において修正しております。
- 業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。
 上記予想に関する事項につきましては、3 ページ【定性的情報・財務諸表等】 3 連結業績予想に関する定性的情報、および本日別途開示する「業績予想の修正等に関するお知らせ」をご覧ください。
- 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第 12 号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第 14 号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。なお、四半期連結財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成 20 年 8 月 7 日内閣府令第 50 号)附則第 7 条第 1 項第 5 号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。
- 当社は、平成 20 年 4 月 1 日付で普通株式 1 株につき 1.05 株の株式分割を行っております。

・定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当社グループでは、国産品を中心とした「安全で安心な食材」により、お客さまに「健康とおいしさ」をお届けし、常にお客さまを第 1 に考え、顧客満足度の高いサービスの提供に努めております。

当第 2 四半期連結累計期間は、試食メニューの変更を行い積極的な販売促進キャンペーン企画等を実施してまいりました。献立メニューについては「からだに優しく栄養のバランスも良い、どこか懐かしくなる献立」として創り上げた「和食便り」を発売し、好評を頂いております。単価も付加価値を加味して、高めに設定し販売単価アップにもつなげております。また、他のレギュラーメニューにおいても、食材の魅力を引き出すなど健康でおいしい食生活が提案できるよう、よりよい献立の提供に励んでおり、特売商品売上についても、商品を厳選し点数を絞り込む一方で販売機会を増やし、売上の増加を図っております。

営業所の新設については、豊橋営業所を開設し、既存エリア外への着実な浸透を図っております。なお、営業効率の向上を目的として、幸営業所を閉鎖し、業務を宮前営業所に引き継いでおります。

利益面では、使用材料等の厳選などにより、一定の粗利益の維持、向上に努めておりますが、原油価格の高騰や食材の国産指向への回帰により、原材料の仕入価格などが影響を受けており、売上総利益率は 40.4%と前年同期に比べ 1.0 ポイント低下しております。

また、販売費及び一般管理費については、将来の売上増加に向けて積極的に拡販策を講じたことなどにより、売上高に対する比率は 41.1%と前年同期に比べ 1.3 ポイント上昇しております。

これらの結果、当第 2 四半期連結累計期間の業績は、売上高は 54 億 2 百万円（前年同期比 103.2%）と増加しておりますが、経常利益は 74 百万円の損失（前年同期は 61 百万円の利益）、四半期純利益は 87 百万円の純損失（前年同期は 20 百万円の純利益）となっております。

主な商品別売上高は、次のとおりとなっております。

主力のレギュラーメニュー売上高については受注数、出荷数とも順調に増加しており、49 億 36 百万円（前年同期比 103.2%）となっております。

特売商品売上高については、4 月の企画を、4 月、5 月と 2 回に増やし、また、7 月の企画を 7 月、8 月と 2 回に増やした結果、1 億 51 百万円（前年同期比 125.1%）と増加しております。

また、ヘルシーメニュー売上高は、2 億 79 百万円（前年同期比 93.7%）、業務用売上高は、34 百万円（前年同期比 113.3%）となっております。

なお、「前年同期比」（前年同期の金額）につきましては、参考として記載しております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

資産の部では、前連結会計年度末に比べ流動資産のその他（主に短期前払費用）が 50 百万円増加したものの、現金及び預金が 1 億 50 百万円、土地が売却により 99 百万円、投資有価証券が時価下落に伴い 41 百万円それぞれ減少したこと等により、資産合計は前連結会計年度末に比べ 2 億 45 百万円減少の 97 億 46 百万円となっております。

負債の部では、前連結会計年度末に比べ長短の借入金（1 年内返済予定長期借入金を含む。）が 4 億 14 百万円増加したものの、買掛金が 70 百万円、未払法人税等が 34 百万円、社債（1 年内償還予定社債を含む。）が 3 億 87 百万円それぞれ減少したこと等により、負債合計は前連結会計年度末に比べ 48 百万円減少の 65 億 23 百万円となっております。

純資産の部では、前連結会計年度末に比べ利益剰余金が 1 億 72 百万円減少したこと等により、純資産合計は前連結会計年度末に比べ 1 億 97 百万円減少の 32 億 23 百万円となっております。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループの連結業績予想については、平成 20 年 7 月 25 日に公表した予想数値を変更しております。詳細は、本日付「業績予想の修正等に関するお知らせ」を公表しておりますので、ご覧ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 簡便な会計処理

固定資産の減価償却費の算定方法

固定資産の年度中の取得、売却および除却等の見積を考慮した予算に基づく年間償却
予定額を期間按分する方法によっております。

② 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第 12 号)及び「四半期
財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第 14 号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。なお、四半期
連結財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣
府令」(平成 20 年 8 月 7 日内閣府令第 50 号)附則第 7 条第 1 項第 5 号のただし書きにより、改
正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

② 通常の販売目的で保有する棚卸資産については、従来最終仕入原価法による原価法によってお
りましたが、第 1 四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準
第 9 号 平成 18 年 7 月 5 日)が適用されたことに伴い、最終仕入原価法による原価法(貸借対照
表価額については収益性低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。なお、この
変更による営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,205,761	1,356,519
受取手形及び売掛金	45,249	47,553
原材料及び貯蔵品	111,227	116,661
繰延税金資産	79,415	78,889
その他	86,384	35,973
貸倒引当金	△122	△122
流動資産合計	1,527,917	1,635,474
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,721,505	1,704,734
土地	5,676,443	5,776,347
その他(純額)	87,231	112,223
有形固定資産合計	7,485,179	7,593,305
無形固定資産		
のれん	997	1,178
その他	58,905	61,013
無形固定資産合計	59,902	62,191
投資その他の資産		
投資有価証券	338,133	379,237
繰延税金資産	49,817	41,831
その他	302,915	297,404
貸倒引当金	△17,220	△17,220
投資その他の資産合計	673,646	701,253
固定資産合計	8,218,728	8,356,750
資産合計	9,746,645	9,992,225
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	401,743	472,283
短期借入金	1,724,000	1,457,000
未払法人税等	24,158	58,352
賞与引当金	144,600	134,300
その他	1,591,668	1,794,014
流動負債合計	3,886,170	3,915,951
固定負債		
社債	315,000	424,000
長期借入金	2,318,718	2,228,690
退職給付引当金	0	28
その他	3,458	3,091
固定負債合計	2,637,176	2,655,809
負債合計	6,523,346	6,571,760

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,148,010	1,148,010
資本剰余金	1,616,938	1,616,648
利益剰余金	919,229	1,091,405
自己株式	△442,229	△437,276
株主資本合計	3,241,949	3,418,786
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△18,649	1,677
評価・換算差額等合計	△18,649	1,677
純資産合計	3,223,299	3,420,464
負債純資産合計	9,746,645	9,992,225

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
売上高	5,402,085
売上原価	3,219,633
売上総利益	2,182,451
販売費及び一般管理費	2,222,072
営業損失(△)	△39,620
営業外収益	
受取利息	1,518
受取配当金	1,804
受取保険金	1,071
受取地代家賃	3,895
受取手数料	4,391
その他	1,357
営業外収益合計	14,038
営業外費用	
支払利息	40,959
その他	7,475
営業外費用合計	48,435
経常損失(△)	△74,018
特別利益	
固定資産売却益	13,667
特別利益合計	13,667
特別損失	
固定資産除却損	2,985
特別損失合計	2,985
税金等調整前四半期純損失(△)	△63,336
法人税、住民税及び事業税	18,111
法人税等調整額	5,901
法人税等合計	24,013
四半期純損失(△)	△87,350

注記事項

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第 12 号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第 14 号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。なお、四半期連結財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成 20 年 8 月 7 日内閣府令第 50 号)附則第 7 条第 1 項第 5 号のただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考」

前中間期に係る財務諸表等

(要約) 中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 平成19年 4 月 1 日 至 平成19年 9 月30日)
売上高	5,232,419
売上原価	3,067,862
売上総利益	2,164,556
販売費及び一般管理費	2,084,072
営業利益	80,484
営業外収益	
受取利息	1,583
その他	11,080
営業外収益合計	12,663
営業外費用	
支払利息	30,074
その他	1,404
営業外費用合計	31,478
経常利益	61,669
特別損失	
固定資産除却損	42
特別損失合計	42
税金等調整前中間純利益	61,626
法人税、住民税及び事業税	23,218
法人税等調整額	17,850
中間純利益	20,557

平成21年3月期 第2四半期決算短信(発表資料の要約)

当社の平成21年3月期 第2四半期決算につきまして、配布の決算短信のとおり発表させていただきます。

1. 業績について

イ 当第2四半期累計期間の業績

	(連結)		(個別)	
		前年同期比		前年同期比
売上高	54億2百万円	103.2%	53億81百万円	103.2%
営業利益	△39百万円	—%	△48百万円	—%
経常利益	△74百万円	—%	△63百万円	—%
当期純利益	△87百万円	—%	△73百万円	—%
1株当たり当期純利益	△7円85銭		△6円57銭	

(注) 当社の連結対象子会社は、株式会社食文化研究所1社であります。

- ① 売上高は54億2百万円で、前年同期に比べ1億69百万円増加しました。豊橋営業所の新設やルート増を行い、積極的に営業活動を行った結果、主力のレギュラーメニュー商品の売上高は、前年同期比103.2%と増加しております。また、特売商品は販売機会を増加させたことにより売上高は、前年同期比125.1%と増加しております。
- ② 経常利益は74百万円の損失(前年同期は61百万円の経常利益)になりました。売上総利益率は原材料価格の高値推移の影響を受けて40.4%と1.0ポイント低下しており、売上高の増加による売上総利益の増加は前年同期に比べ17百万円になっております。また、販売費については、豊橋営業所を新設したこと等、積極的な営業活動を行ったことなどにより、前年同期に比べ1億37百万円増加しております。
- ③ 四半期純利益は、遊休土地の売却益を13百万円計上したものの税金費用の負担もあり、87百万円の純損失(前年同期は20百万円の四半期純利益)になっております。

ロ 通期の業績予想

	(連結)		(個別)	
		前年同期比		前年同期比
下半期				
売上高	60億60百万円	105.4%	60億31百万円	105.4%
営業利益	3億3百万円	194.2%	2億70百万円	195.7%
経常利益	2億76百万円	235.9%	2億43百万円	245.5%
当期純利益	2億13百万円	443.8%	1億91百万円	516.2%
1株当たり当期純利益	19円14銭		17円16銭	
通期		前期比		前期比
売上高	114億62百万円	104.4%	114億12百万円	104.4%
営業利益	2億64百万円	111.9%	2億22百万円	109.4%
経常利益	2億2百万円	113.5%	1億80百万円	109.8%
当期純利益	1億26百万円	185.3%	1億18百万円	176.1%
1株当たり当期純利益	11円32銭		10円60銭	

2. 株主還元策について

イ 配当金

当中間配当金	1株当たり8円にさせていただきます。
期末配当金予想	1株当たり8円を予定しております。(年間16円を予定しております。)

ロ 株主優待策

毎年3月31日及び9月30日現在の当社株式1千株以上所有の株主に対し、半期8千円（通期16千円）相当の自社製品を進呈いたします。（従来どおり）

3. 財政状態について

財政状態は、決算短信3ページ 2 連結財政状態に関する定性的情報に記載のとおりです。

自己資本比率は、前期末の34.2%から33.1%になりました。この主な理由は、利益剰余金の減少によるものであります。

1株当たり純資産は、前期末の307円23銭（株式分割1：1.05を遡及修正後）から289円68銭になりました。

4. 設備投資について

当第2四半期 累計期間	設備金額	80百万円 主なものは 建物設備等新築費用 豊橋営業所 42百万円 枚方営業所 23百万円 その他 15百万円
	減価償却費	85百万円
通期予想	設備金額	当第2四半期累計期間分を含め、1億50百万円を予定しております。 内訳 営業所建物設備等 110百万円（3件） その他 40百万円
	減価償却費	1億70百万円

5. 通期の見通しについて

売上高につきましては、豊橋営業所の開設やルート増などにより営業基盤の拡大を行うとともに積極的な販売促進キャンペーン企画等の実施により、増加傾向になってまいりました。下期につきましては、さらに訪問活動を強化することにより新規顧客の獲得そして既存顧客の継続強化に取り組んでまいります。また、特売商品の販売については、特に年末年始のおせち販売等に力を注ぎ、通期における売上増加に向けて全力を尽くしてまいります。

利益面については、原材料価格の高値推移が予想されますが、引き続き献立メニューの改善や商材調達の見直しを積極的に行い、粗利益率の改善に努めてまいります。また、生産システムや営業システムの業務改善にも継続して取り組み、企業体質を強化して利益確保に努めてまいります。

以上、当第2四半期連結累計期間の業績の結果及び下期の見通しにより、通期の業績につきましては、前回発表予想（平成20年7月25日発表）を修正し、売上高は114億62百万円、営業利益は2億64百万円、経常利益は2億2百万円、当期純利益は1億26百万円を予定しております。

以 上